5月 きっずるーむだより

第 66 号
令和８年５月８日発行
社会福祉法人ゆうゆう
きっずるーむ県庁別館

あっという間に桜の花がどこかへ旅に出て、新緑の葉っぱへバトンタッチしました。
さらりとした爽やかな風と暖かな日差しが肌に触れ、毎日が散歩日和です。
散歩中には青虫やテントウ虫や蝶々などを見つけて、こども達は目を丸くしています。
この時期のお散歩には発見や面白いものがたくさんで、興味が尽きないようです

鯉　の　ぼ　り

大空を悠然と泳ぐ鯉のぼりの姿は、
「健やかな成長と立身出世を願う」という意味があるそうです。
鯉は清流ではなく、沼や池といった過酷な場所でも生きられる、とても丈夫な魚であることから、鯉を飾るようになったともいわれています。
最初に鯉のぼりが登場したのは江戸時代。しかし当時はまだ、長男の「黒い真鯉（まごい）」1 匹だけでした。明治時代以降に「赤い緋鯉（ひごい）」が追加され、『真鯉は父親』『緋鯉は子ども』と、童謡でも歌われるようになりました。
現在のような色とりどりの鯉のぼりが飾られるようになったのは、戦後といわれています。
東京オリンピックの際に、五輪マークを見た職人が、カラフルな鯉のぼりを作ったことがはじまりとのこと。鯉のぼりにオリンピックが関連していたというのは驚きですね。

着替えについて

晴れた日は公園で遊びや散歩を楽しみます。
５ 月に入り気温が高い日も多く、こども達は汗をかくことが増えてきます。汗で濡れてしまった服は通気性が悪く、熱の放散が難しくなります。そのため、心地よく快適に過ごすためにもこまめな着替えをきっずるーむでは行っています。
着替えの持参と、衣服の名前の確認よろしくお願い致します。

絵　本　紹　介

今回紹介する保育者のおすすめの絵本は、
長谷川摂子作「めっきらもっきらどおんどん」です。
“かんた”という男の子がある日神社の境内に遊びに行ったのですが、遊び相手が見つからず大声である歌を歌いました。すると、木の穴から奇妙な声が聞こえてきます。 思わず木の中をのぞき込んだ途端、“かんた”は穴の中に吸い込まれ、不思議な世界へいくお話です。
ページによって持ち方を変える絵本になっています。機会があればお手に取ってみて下さい。

こどもの様子

以前の利用はハイハイを楽しんでいた子が、
次の利用ではつかまり立ち・伝い歩きを楽しむようになっています。
A 君(0 歳 10 ヶ月)も、きっずるーむの柵を上手に使って
つかまり立ち・伝い歩きをするようになりました。
柵の他にもおもちゃの棚や机を、使って楽しんでいます。
１０ヶ月はつかまり立ちや伝い歩きが活発になり、行動範囲が急増する頃です。
また指先が器用になり掴む力も強くなるとされている時期でもあります。
しかし転倒からの怪我にも繋がる事を考え、なるべく柔らかい床の畳やマットの上で
つかまり立ち・伝い歩きを見守り関わるようにきっずるーむではしています。
こどもの成長を見守れる喜びを職員一同感じています。